

「妻」として、「母」として、 生きた持統天皇？

大河ドラマ的
女性天皇の生涯!?



“春過ぎて 夏来にけらし
白妙の衣ほすてふ 天の香具山”

小倉百人一首にも選ばれている持統天皇の有名な和歌です。

彼女は天智天皇の娘として「大化の改新」の年に生まれました。叔父である大海人皇子（後の天武天皇）の妻となり、後に皇后になりましたが、即位を予定していた息子の草壁皇子が死去したため、自らが即位しました。

持統天皇（女性天皇）というと「内助の功」や「夫婦愛」が強調されますが、真実の姿はどうだったのでしょうか。

講師：鈴木織恵氏（すすき・おりえ）
淑徳大学准教授

平凡社で『21世紀大日本史』の編集執筆。
東京大史料編纂所研究支援推進員、
神々の国しまね実行委員会学芸専門員などを
経験。

●日時：10月14日（金） 14:00～16:00

●場所：タワーホール船堀 4F 研修室（都営新宿線・船堀駅すぐ）

●定員：60名

参加費無料

お申し込みは電話またはファクスで、9月11日（日）9:00から受け付けます。

江戸川区女性センター（江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3階）

TEL：03-5676-2455 FAX：03-5676-2458

※子どもの保育（2歳以上の未就学児8名まで。申し込み順）、

手話通訳をご希望の方は、9月30日（金）までにお申し込みください。